



## 社会の変化を先取りし、新たな目標と戦略をもって、 環境行動計画を遂行していきます。

### 第17次中期環境行動計画の策定のプロセス

リコーグループは、地球環境の目指す姿を描いたうえで、自ら高い目標を掲げ、全員参加の環境保全活動に取り組んでいます。これらの活動の成果を継続的に上げるには、より長期的な視点に立つことが重要と考え、2020/2050年の中長期環境負荷削減目標を策定し、そこからバックキャストिंगによって、3カ年ごとの中期環境行動計画の目標設定を行っています。

第17次中期経営計画（2011年度～2013年度）に対応する環境行動計画の策定にあたっては、温暖化の加速や資源の枯渇などの早期に対応すべき地球的課題とともに、リコーグループの事業戦略、環境技術の開発状況などを考慮しています。

### 第17次環境行動計画の目標と重点戦略

第17次環境行動計画の目標と重点戦略は、以下のとおりです。リコーグループは、本計画の遂行により、新たな方向で環境経営を深化、加速させていきます。

#### ①事業成長と温暖化防止を両立する事業活動および

##### 技術開発の促進

リコーグループ第17次中期経営計画では、主力事業の効率化とサービス事業の拡大、新規事業参入や新興国市場への進出などによる成長戦略を掲げています。事業の成長に伴い、生産活動によって発生するCO<sub>2</sub>は増加が予測されますが、これらの増加分をゼロに抑えるために環境技術開発や生産プロセス革新を積極的に進めていきます。

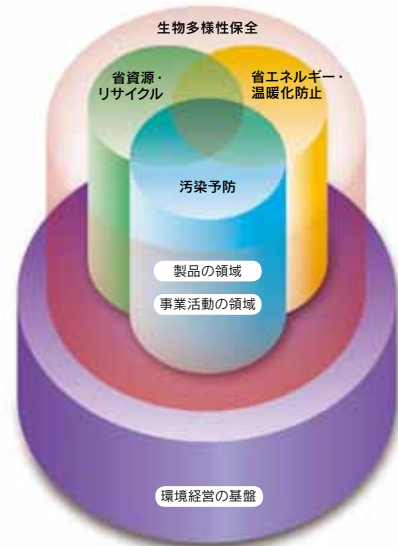
また、製品ライフサイクルでの環境負荷削減を目指し、より省エネ効果の高い製品の開発と、製品の省エネにとどまらず、お客様のオフィス全体のCO<sub>2</sub>を削減する提案をより積極的に推進していきます。

#### ②資源循環型社会に向けた資源の有効利用

製造において、新たに投入する資源を減らすために、製品の小型・軽量化と資源の再利用、リサイクルをさらに積極的に進めていきます。

開発においては、「再生材料の利用促進」「長期的な部品リユースを前提にした製品部品の共通モジュール化」「部品の余寿命判定技術の確立」「低環境負荷・低コストを実現する製品の再生技術の開発」などに注力していきます。リサイクルネットワーク体制においては、「グローバルでの使用済み製品の回収インフラ整備および体制強化」を図ります。

リコーグループの環境経営の全体像(2011年度から)



物流・輸送においては、製品輸送および生産拠点間輸送の実データに基づいたCO<sub>2</sub>の見える化をグローバルで進め、効果的な削減活動を展開します。

#### ③環境安全性の高い製品づくりおよび

##### 事業活動に向けた化学物質管理の強化

リコーグループでこれまで構築してきた化学物質リスク管理体制のさらなるレベルアップを図り、すでに規制対象の化学物質だけでなく、その他の環境リスクの高い化学物質についても削減および安全性の高い化学物質への代替を進めます。また、製品使用時に排出される環境影響化学物質の低減については、ブルーエンジェル基準に準拠しますが、今後の基準改定に即座に対応できるよう評価測定技術の確立と低減技術開発を先行して進めていきます。

#### ④地球の再生能力の維持・回復を目指した

##### 生物多様性活動の推進

これまでリコーグループで行ってきた生物多様性に寄与する植樹やその他の地球の再生能力向上活動に加え、事業活動においても生物多様性に配慮する活動を行っていきます。具体的には、事業所敷地における生物多様性への影響の低減を目指し、敷地の植栽や緑地の管理状況の把握と外来種の調査を行い、農薬等の化学物質の使用抑制と外来種の排除を進めていきます。

2011年度から2013年度までの環境行動計画

目標値（達成レベル）

|                                   |   |  |
|-----------------------------------|---|--|
| 1<br><br>省エネ・<br>温暖化防止            | 1) 製品製造における、温室効果ガスの削減   |  |
|                                   | ・エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 排出量の抑制   | ・2010年度同等以内に抑え、298千トン-CO <sub>2</sub> 以下とする  |
|                                   | ・CO <sub>2</sub> 以外の温室効果ガス排出量の抑制  | ・事業成長等分を吸収して2000年度比38%削減し、25.2千トン-CO <sub>2</sub> 以下とする  |
|                                   | 2) 物流における温室効果ガスの削減  |  |
|                                   | ・リコーロジスティクスが直接排出する温室効果ガス総排出量の削減   | ・2000年度比21%削減し、7.6千トン以下とする   |
|                                   | 3) 販売・保守における温室効果ガスの削減   |  |
|                                   | ・国内販売・保守活動のエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量の削減  | ・2000年度比21.5%削減し、38千トン以下とする  |
|                                   | ・海外販売・保守活動のエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量データの把握と目標設定を2011年度中におこなう<br>・上記の目標を達成する    | ・同左  |
|                                   | 4) 製品消費電力に関連するCO <sub>2</sub> 排出量の削減  |  |
|                                   | ・リコーグループ中期環境負荷削減目標の達成を目指した「省エネ」製品の開発  | ・製品消費電力によるCO <sub>2</sub> 排出総量2013年度目標を達成する  |
|                                   | ・お客様先での製品の省エネ設定を促進する  | ・省エネ設定促進のための活動を実施する  |
|                                   | 5) 製品使用時の紙の有効利用によるCO <sub>2</sub> 削減  |  |
| ・両面・集約利用促進による紙削減率の向上              | ・両面・集約利用促進のための活動を実施する   |  |
| 6) 中長期的な環境負荷削減を目指した環境技術開発         |   |  |
| ・2020年中期環境負荷削減目標達成に貢献する省エネ技術開発を行う | ・2020年中期環境負荷削減目標（リコーグループライフサイクルでのCO <sub>2</sub> を2000年比30%削減）達成に貢献する省エネ技術開発の実施 |  |
| 2<br><br>省資源・<br>リサイクル            | 1) 新規投入資源削減量の拡大   |  |
|                                   | ・3Rおよび資源の代替により、新規投入資源量を削減する   | ・削減量を2007年度比5倍以上に拡大  |
|                                   | 2) 再生製品販売活動における新規資材・部品の投入量削減への貢献  |  |
|                                   | ・国内外における製品再使用量を拡大する   | ・2013年度：14,000 t / 年（全世界合計）  |
|                                   | ・製品の回収率を向上させる   | ・製品回収促進のための活動を実施し、回収実績結果を開示する  |
|                                   | 3) 排出物の削減   |  |
|                                   | ・サーマル事業にともなう排出物の削減  | ・生産量あたりの排出量を2007年度比26%削減する   |
| ・重合トナー製造に伴う排出物の削減                 | ・生産量あたりの排出量を2007年度比22%削減する  |  |
| ・生産包装材（ダンボール）排出量の削減               | ・画像製品の生産包装材の生産量あたりの排出量を2010年度比6%削減する  |  |
| 3<br><br>汚染予防                     | 1) 環境生態影響等のリスク評価を行い、より包括的なリスク評価体制を構築する  |  |
|                                   | ・化学物質に関するワールドワイドのリスクマネジメント体制の構築   | ・製造工程から排出される化学物質について、環境生態影響等のリスク評価手法が獲得され、評価結果に基づきリスク管理低減活動が展開されている  |
|                                   | 2) 環境影響化学物質の使用量・排出量削減   |  |
|                                   | ・環境影響化学物質の使用量・排出量削減   | ・テーマ①：2000年度比換算使用量75%、換算排出量90%削減<br>・テーマ②：GHS*の有害性レベルの重み付け手法が獲得され、GHSベースの換算使用量・排出量の削減目標が設定されている<br>* The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals |
|                                   | 3) 製品環境性能の向上  |  |
| ・化学エミッション対策の強化                    | ・ブルーエンジェル基準をベースとしたオゾン・粉じん・VOC類のリコー自主基準の遵守                                       |  |
| 4<br><br>生物多様性<br>保全              | 1) 地球再生能力の維持、回復への貢献   |  |
|                                   | ・生物多様性保全を目的とする社会的責任活動の実施  | ・リコーグループにおいて社会的責任活動を実施する   |
|                                   | 2) 事業所数地での生物多様性配慮の実施  |  |
| ・事業所数地における生物多様性への影響把握と負荷の低減       | ・事業所数地管理ガイドラインを作成し、それに基づく管理をリコーグループ全事業所において実施する                                 |  |